

【第7期南幌町総合計画】
中学生・高校生等意識調査結果報告書
(概要版)
＜令和7年度実施＞

令和8年4月

目 次

1	調査概要.....	1
2	主な結果.....	2
2.1	回答者の属性.....	2
2.2	南幌町への愛着・定住意思・生活満足度.....	3
2.3	南幌町の現状と将来.....	7
3	まとめ.....	11
3.1	論点 1 町への愛着と定住意思.....	11
3.2	論点 2 生活環境に対するニーズと満足度.....	11
3.3	論点 3 将来のまちづくりと町内就職に対する意識.....	12

1 調査概要

1.1 調査の趣旨

南幌町では、平成29年度に策定した「第6期南幌町総合計画」に基づき、各種施策を推進してきたが、10年間の計画期間が令和8年度までとなっており、これまでの取組みを点検しながら、これからのまちづくりを方向づけていくため、「第7期南幌町総合計画」を策定する。

策定にあたり、南幌町の将来を担う世代の中学生・高校生などからご意見などをお聞かせいただき、より地域の実情と個性を反映した実効性のある総合計画策定の基礎資料とするため、本調査を実施した。

なお、本稿においては、調査項目のうち特に次期総合計画策定の参考になると考えられる項目を抽出して整理した。

1.2 調査の実施

令和7年7月1日を基準日に、南幌町の13～18歳の町民305名を調査対象者とし、郵送による調査票の配布・回収、及びオンラインフォームによる回答を受け付けた。

調査期間は、令和7年8月29日～9月26日までとした。

1.3 回答状況

配布数305件に対し、有効回答188件が得られた（回答率：61.6%）。

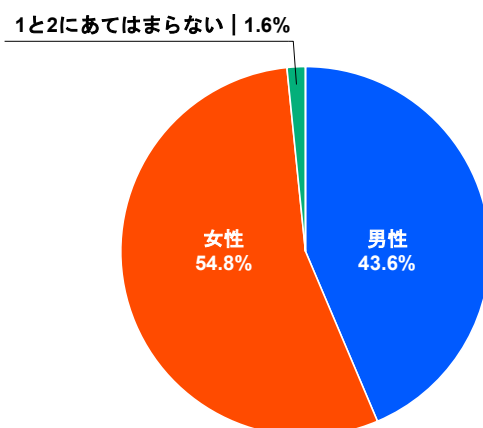
2 主な結果

2.1 回答者の属性

1) 性別

「女性（54.8%）」が最も多く、「男性（43.6%）」、「1と2にあてはまらない（1.6%）」が続いている。令和7年1月時点の南幌町の総人口によれば、男性48.2%、女性51.8%となり、母集団と比較して大きな偏りはみられない。

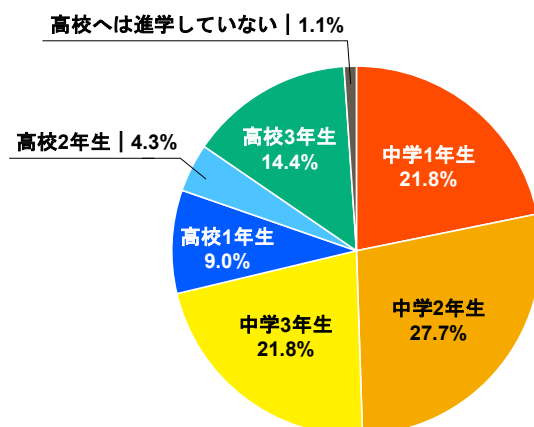
問1：性別は何ですか（N = 188）



2) 学年

「中学2年生（27.7%）」が最も多い。「中学1年生（21.8%）」と「中学3年生（21.8%）」を合わせて、中学生が全体の約7割となる。また、高校生は全学年を合わせて約3割を占める。

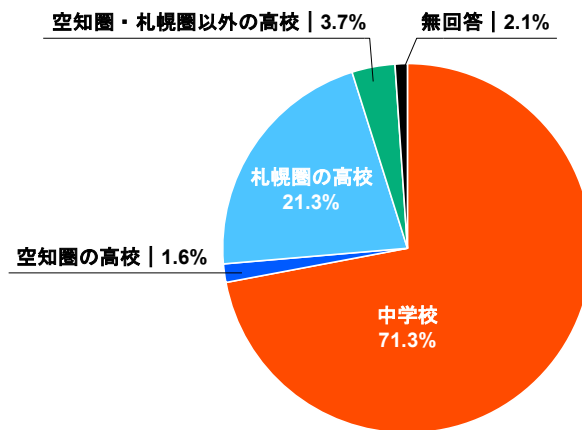
問2：学年は何ですか（N = 188）



3) 通学先（「中学生」または「高校生」と回答した方のみ）

問2『学年』同様に、「中学校（71.3%）」が最も多い。「札幌圏の高校（21.3%）」が続き、「札幌圏以外の高校（5.3%）」も1割未満だが存在する。

問3：通っている学校はどちらですか（N = 186）



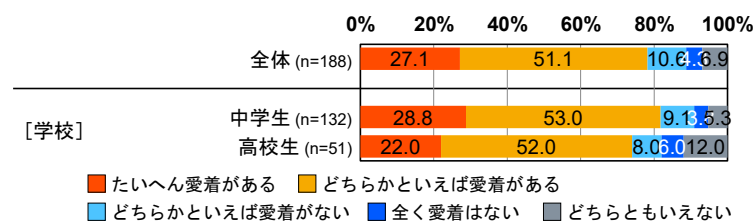
2.2 南幌町への愛着・定住意思・生活満足度

1) 南幌町への愛着

全体では、「たいへん愛着がある（27.1%）」と「どちらかといえば愛着がある（51.1%）」を合わせて、約8割が南幌町に愛着を示している。「全く愛着はない（4.3%）」は1割に満たない。

学年別では、「たいへん愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた肯定的回答は、中学生（81.8%）が高校生（74.0%）より高く、中学生ほど愛着が強い傾向がみられる。

問5：南幌町に愛着を感じていますか

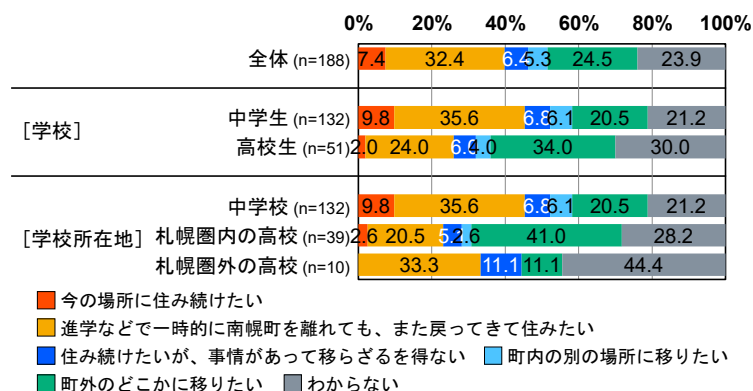


2) 将来の定住意思

全体では、「進学などで一時的に南幌町を離れても、また戻ってきて住みたい（32.4%）」が最も多い。「今の場所に住み続けたい（7.4%）」、「住み続けたいが、事情があって移らざるを得ない（6.4%）」、「町内の別の場所に移りたい（5.3%）」を合わせて、約5割が南幌町への定住意思を示している。一方で、「町外のどこかに移りたい（24.5%）」、「わからない（23.9%）」を合わせて、定住意思が未定・ないも約5割を占める。

学年別では、定住意思が未定・ないは、高校生（64.0%）の方が中学生（41.7%）に比べて高い。また、学校所在地別では、高校生の中でも札幌圏内の高校が「町外のどこかに移りたい（41.0%）」の割合が高く、定住意思が低い傾向がある。

問6：将来も南幌町に住み続けたいと思いますか



3) 住み続けるうえで重要なこと

全体では、「医療機関や福祉施設が充実している（44.5%）」、「買い物しやすく、娯楽施設が充実している（43.4%）」、「治安が良く、犯罪が少ない（35.7%）」が上位3項目となる。「交通の利便性が良い（31.9%）」、「自然が豊かでのびのびできる（26.9%）」も一定の割合を占めることから、医療・商業・交通等の生活基盤と利便性の確保を重視する傾向がある。

学年別では、中学生は「医療機関や福祉施設が充実している（47.7%）」、「住まいの環境が良い（20.5%）」、「防災対策が充実している（14.4%）」の3項目においては、高校生に比べて重要と思う割合が10ポイント以上高い。一方で、高校生は「交通の利便性が良い（56.0%）」の1項目のみ重要と思う割合が中学生に比べて10ポイント以上高く、差は33.3ポイントとなる。したがって、生活基盤・利便性の確保の中でも、中学生は身近な生活環境、高校生は交通利便性を重視する傾向の違いがみられる。

学年別クロス集計結果

		医療機 関や福 祉施設 が充実 してい る	子育て 環境が 充実し ている	自然が 豊かで のびの びでき る	買い物 しやす く、娯 楽施設 が充実 してい る	教育環 境が充 実して いる	治安が 良く、 犯罪が 少ない	住まい の環境 が良い	交通の 利便性 が良い	環境に 配慮し た取組 みが盛 ん	防災対 策が充 実して いる	地域と のつな がり、 愛着が 感じら れる	身 体 的・精 神的に 健康で 過ごす ことが できる	文化・ 芸術を 体験で きる場 所が充 実して いる	働く場 所が充 実し、 やりた い仕事 が見つ けられ る	その他
全体		44.5	24.7	26.9	43.4	14.8	35.7	15.9	31.9	2.2	11.5	4.4	10.4	5.5	13.7	1.1
学年別	中学生	47.7	27.3	28.8	43.2	17.4	35.6	20.5	22.7	2.3	14.4	4.5	9.8	6.8	13.6	0.8
	高校生	36.0	18.0	22.0	44.0	8.0	36.0	4.0	56.0	2.0	4.0	4.0	12.0	2.0	14.0	2.0

4) 現在の南幌町の満足度

「満足」と「やや満足」を合わせた肯定的意見は、「自然が豊かででのびのびできる（87.8%）」、「子育て環境が充実している（81.7%）」、「住まいの環境が良い（80.5%）」、「地域とのつながり、愛着が感じられる（80.0%）」、「治安が良く、犯罪が少ない（69.5%）」が上位5項目を占める。

「不満」と「やや不満」を合わせた否定的意見は、「交通の利便性が良い（78.2%）」、「働く場所が充実し、やりたい仕事が見つけられる（64.6%）」、「買い物しやすく、娯楽施設が充実している（61.2%）」、「その他（50.0%）」、「文化・芸術を体験できる場所が充実している（29.4%）」が上位5項目を占める。

住環境・子育て環境・治安等は高い満足度が示されている一方、公共交通は路線バスの便数が少ないなど、満足度が低く、日常生活・通学時の影響が大きい課題とみられる。

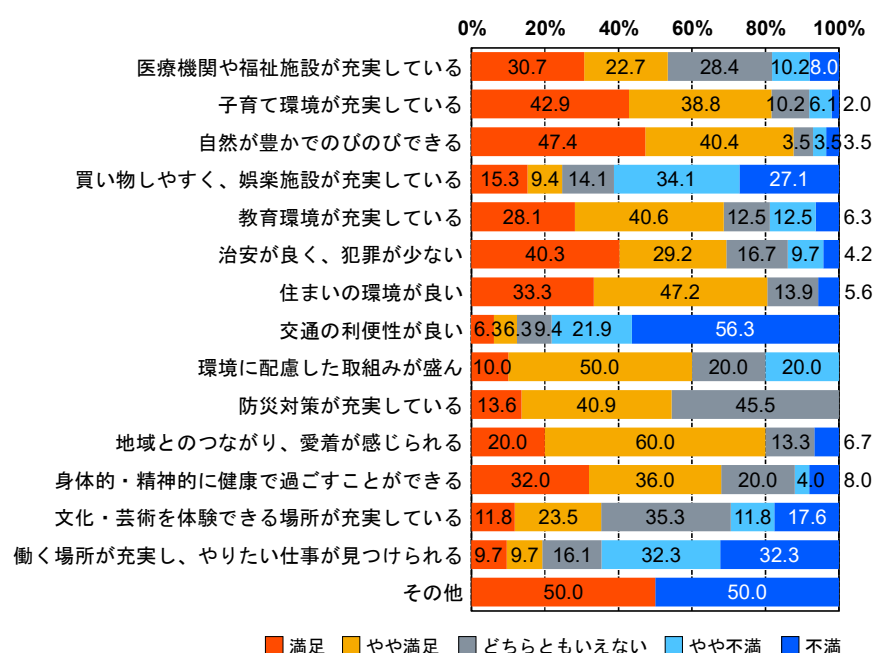
「満足」「やや満足」の合計上位5項目（単位：％）

順位	項目	「満足」・「やや満足」の合計
1	自然が豊かででのびのびできる	87.8
2	子育て環境が充実している	81.7
3	住まいの環境が良い	80.5
4	地域とのつながり、愛着が感じられる	80.0
5	治安が良く、犯罪が少ない	69.5

「不満」「やや不満」の合計上位5項目（単位：％）

順位	項目	「不満」・「やや不満」の合計
1	交通の利便性が良い	78.2
2	働く場所が充実し、やりたい仕事が見つけられる	64.6
3	買い物しやすく、娯楽施設が充実している	61.2
4	その他	50.0
5	文化・芸術を体験できる場所が充実している	29.4

問13-2：現在の南幌町の満足度は何ですか（N = 188）



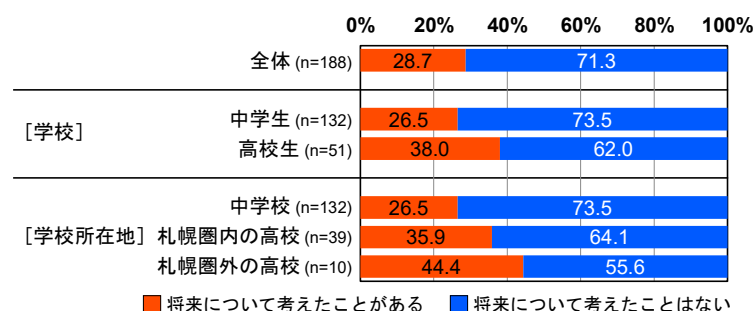
2.3 南幌町の現状と将来

1) 将来の南幌町について考えたことがあるか

全体では、「将来について考えたことがある（28.7%）」は3割未満となり、「将来について考えたことはない（71.3%）」が半数以上を占める。したがって、将来の南幌町の姿について考える機会が少ないことがうかがえる。

学年別では、高校生ほど「将来について考えたことがある（38.0%）」が中学生（26.5%）より高く、高校生の方が将来像を考える機会が多く、学校所在地別では、札幌圏外の高校ほど「将来について考えたことがある（44.4%）」が高く、将来像を考える機会が多いことがうかがえる。

問8：10～20年後の将来に、南幌町がどうなっているか想像したり考えたりしたことはありますか

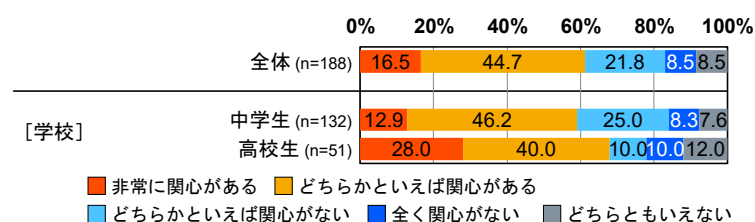


2) 町の将来像への関心

全体では、「非常に関心がある（16.5%）」と「どちらかといえば関心がある（44.7%）」を合わせて、約6割がまちづくりへ関心を示している。

学年別では、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は、高校生（68.0%）の方が中学生（59.1%）に比べて高く、まちづくりへの関心が高い傾向がある。

問9：南幌町が今後どのようなまちを目指し、どのような取組みを進めていくかについて関心がありますか

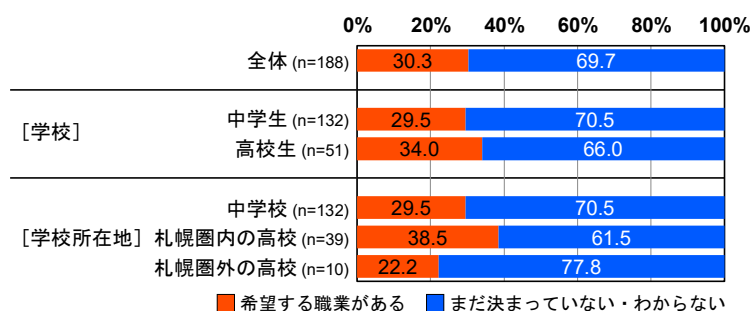


3) 将来の職業希望

全体では、「希望する職業がある（30.3%）」は約3割となり、「まだ決まっていない・わからない（69.7%）」が半数以上を占める。

学校別では、「希望する職業がある」は、高校生（34.0%）が中学生（29.5%）に比べてやや高く、高校生の中では、札幌圏内の高校（38.5%）が札幌圏外の高校（22.2%）に比べて将来の職業が確定している割合が高い。

問10：将来どのような職業に就きたいと考えていますか

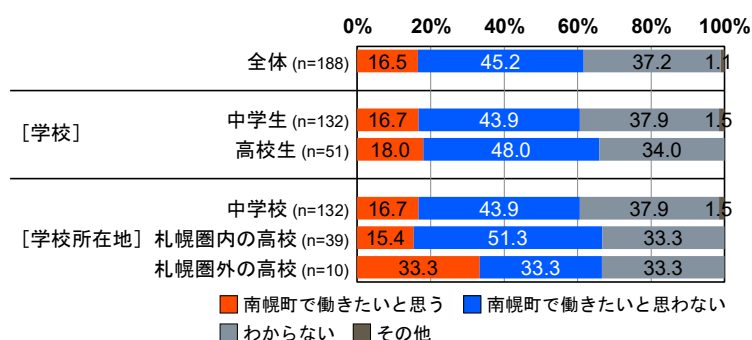


4) 町内就職に対する意向

全体では、「南幌町で働きたいと思う (16.5%)」は2割未満となり、少数となる。「南幌町で働きたいと思わない (45.2%)」が最も多く、「わからない (37.2%)」と合わせて、8割以上が町内を就職先として認識していないとみられる。

学年別では、町内での就職意欲に大きな差はみられないが、学校所在地別では、「南幌町で働きたいと思う」は、札幌圏外の高校 (33.3%) が札幌圏内の高校 (15.4%) に比べて高く、就職意向が高い傾向がみられる。

問11：興味のある会社・職業が南幌町内で見つかる場合 南幌町内で働きたいと思いますか



5) 将来に望むまちの姿

全体では、「農業・農村が元気なまち（50.5%）」が最も多く、次いで「無駄をなくして町のお金をうまく使うまち（39.6%）」、「地域で子育て・教育を支えるまち（38.5%）」、「住民と協力してまちづくりを進めるまち（37.9%）」、「誰でも使いやすい便利な交通環境のまち（37.4%）」が上位5項目を占める。したがって、地域の強みである農業振興を維持しながら、子育て支援や交通環境等の生活利便性の向上など、将来の暮らしやすさを重視する傾向がある。

学年別では、中学生は「農業・農村が元気なまち（57.6%）」、「地域で子育て・教育を支えるまち（43.2%）」、「住民と協力してまちづくりを進めるまち（40.9%）」、「子どもから大人まで誰もが学べるまち（22.7%）」の4項目で、回答した割合が高校生に比べて10ポイント以上高い。一方で、高校生は、「誰でも使いやすい便利な交通環境のまち（56.0%）」、「病院や救急など医療の体制が整ったまち（38.0%）」、「災害や犯罪に強い安心・安全なまち（34.0%）」の3項目で、回答した割合が中学生に比べて10ポイント以上高い。高校生では、特に交通環境の利便性向上を求める割合が中学生に比べて25.7ポイント高いが、町内に高校が存在しないため、高校生は町外の高校へ通学しており、日常生活圏の広がりから公共交通の利用機会が急増しているためと考えられる。

学年別クロス集計結果

		住民と 協力し てまち づくり を進め るまち	無駄を なくし て町の お金を うまく 使うま ち	地域同 士で協 力して 課題を 解決す るまち	農業・ 農村が 元気な まち	地域に 合う仕 事や産 業が盛 んなま ち	交流と にぎわ いのあ る商店 街のま ち	地域で 子育 て・教 育を支 えるま ち	地域資 源を活 用した 特色あ る学び ができ るまち	子ども から大 人まで 誰もが 学べる まち	スポー ツやレ クリエ ーショ ンを楽しめる まち	地域の 歴史や 文化を 大切に するま ち	病院や 救急な ど医療 の体制 が整っ たまち	病気を 防ぎ元 気に暮 らせる まち	みんな がいき いきと 暮らせ るまち	自然を 大切に した快 適で災 害に強 いまち	ごみを 減らし リサイ クルを 進める まち	災害や 犯罪に 強い安 全・安 心なま ち	誰でも 使いや すい便 利な交 通環境 のまち	人と人 との出 会いが 生まれ るまち	地域の 良さを 活かし た観光 と交流 のまち	その他
全体		37.9	39.6	12.1	50.5	16.5	32.4	38.5	4.4	19.2	22.5	8.2	30.8	9.9	23.1	20.9	9.9	25.8	37.4	13.7	13.7	1.6
学年別	中学生	40.9	40.2	11.4	57.6	18.2	33.3	43.2	3.0	22.7	21.2	9.1	28.0	12.1	21.2	19.7	12.1	22.7	30.3	10.6	13.6	0.8
	高校生	30.0	38.0	14.0	32.0	12.0	30.0	26.0	8.0	10.0	26.0	6.0	38.0	4.0	28.0	24.0	4.0	34.0	56.0	22.0	14.0	4.0

3 まとめ

調査結果に基づき、町内の中学生・高校生等における現状と課題は、「町への愛着と定住意思」、「生活環境に対するニーズと満足度」、「将来のまちづくりと町内就職に対する意識」という3つの論点として整理できる。

3.1 論点1 町への愛着と定住意思

2.2 1)『南幌町への愛着』及び2)『将来の定住意思』の結果を見ると、町内の中学生・高校生等の約8割が南幌町に対して愛着を示している。一方で、「将来も南幌町に住みたい」とする割合は約5割にとどまり、「町外に移りたい」または「わからない」とする回答も同程度みられる。これらの結果から、町への愛着は一定程度醸成されているものの、将来の定住意思に必ずしも結びついていない状況がうかがえる。

また、学年別で見ると、定住意思が未定または町外志向の割合は高校生の方が中学生に比べて高く、進学・就職等の将来の進路を具体的に考える段階では、町外への意識が強まる傾向がみられる。特に、札幌圏内の高校に通う生徒では町外志向が高く、日常生活圏の広がり意識に影響を与えている可能性がある。

以上を踏まえると、町への愛着を将来の定住意思につなげていくためには、進学や就職といったライフステージの変化を見据えた関わりの継続や、将来にわたり町とのつながりを持ち続けられる環境づくりの視点が求められる。

<町内の中学生・高校生等における町への愛着と定住意思の現状・課題（要約）>

- ・町への愛着は高いものの、将来の定住意思は約5割にとどまっている
- ・高校生ほど定住意思が未定の割合が高く、進学・就職段階で町外意識が強まる傾向がある
- ・町への愛着が将来の定住や町との関わりに十分結びついていない可能性がある

<町内の中学生・高校生等における定住意思の向上に向けて考えられる対応策（案）>

- ・進学・就職期における町との継続的な関係づくり（情報発信、交流機会の確保）
- ・Uターンや地元就職に関する情報提供・支援の充実
- ・地域との関わりを持ち続けられる仕組みづくり（関係人口の創出・維持） 等

3.2 論点2 生活環境に対するニーズと満足度

2.2 3)『住み続けるうえで重要なこと』及び4)『現在の南幌町の満足度』の結果を見ると、町内の中学生・高校生等は、医療機関や福祉施設、買い物や娯楽、治安、交通利便性など、日常生活を支える基盤や利便性を重視していることがうかがえる。一方で、現在の満足度を見ると、「自然が豊かででのびのびできる」、「子育て環境が充実している」、「住まいの環境が良い」などは高い評価を得ているものの、「交通の利便性が良い」、「働く場所が充実し、やりたい仕事が見つけれられる」、「買い物しやすく、娯楽施設が充実している」については不満が高く、必要とされる要素と現状評価との間にギャップがみられる。

また、学年別で見ると、高校生は中学生に比べて「交通の利便性が良い」を重要と考える割合が高く、差は3割を超えている。高校生では、町内に高校がないことから町外への通学が日常化

しており、生活圏の広がりに伴って交通利便性への関心が高まっているものと考えられる。

以上を踏まえると、町内の中学生・高校生等が将来も住み続けたいと思える環境を整えていくためには、自然や住環境といった現在評価されている強みを維持しつつ、交通、働く場所、買い物・娯楽といった生活利便性に関する課題への対応を進めていく視点が求められる。

<町内の中学生・高校生等における生活環境に対するニーズと満足度の現状・課題（要約）>

- ・医療、買い物、治安、交通など、生活基盤や利便性に対するニーズが高い
- ・自然、子育て、住環境などには高い満足度がみられる一方、交通、働く場所、買い物・娯楽には不満が大きい
- ・特に高校生では交通利便性へのニーズが高く、生活圏の広がりに応じた対応が課題である

<町内の中学生・高校生等における生活環境の向上に向けて考えられる対応策（案）>

- ・通学や日常生活を支える交通利便性の向上
- ・買い物や余暇活動に関する生活利便性の向上
- ・将来の就業を見据えた働く場や仕事に関する情報発信の充実 等

3.3 論点3 将来のまちづくりと町内就職に対する意識

2.3 1)『将来の南幌町について考えたことがあるか』及び2)『町の将来像への関心』の結果を見ると、「将来について考えたことがある」とする割合は3割未満にとどまる一方で、「町の将来に関心がある」とする割合は約6割となっている。これらの結果から、まちづくりに対する関心は一定程度あるものの、将来の町の姿について具体的に考える機会は十分とはいえない状況がうかがえる。

また、2.3 3)『将来の職業希望』では、「希望する職業がある」とする割合は約3割にとどまり、将来の進路が未定の生徒が多い状況にある。加えて、2.3 4)『町内就職に対する意向』では、「町内で働きたい」とする割合は2割未満にとどまり、「町外で働きたい」または「わからない」とする回答が大半を占めている。これらの結果から、将来の進路や就業について町内で働くことが具体的な選択肢として十分に認識されていない可能性がある。

さらに、2.3 5)『将来に望むまちの姿』では、「農業・農村が元気なまち」や「地域で子育て・教育を支えるまち」、「誰でも使いやすい便利な交通環境のまち」等が多く挙げられており、地域の強みや暮らしやすさに関わる要素が重視されている。

以上を踏まえると、町内の中学生・高校生等は、まちづくりに対する関心や期待は持っているものの、それが将来の進路や就業と十分に結びついていない状況にあることがうかがえる。このため、まちづくりへの関心を将来の進路選択や町内就業への意識につなげていくための取組みを進めていく視点が求められる。

<町内の中学生・高校生等における将来のまちづくりと町内就職に対する意識の現状・課題（要約）>

- ・まちづくりへの関心は一定程度あるものの、将来の町の姿を具体的に考える機会は少ない
- ・将来の職業や進路が未定の割合が高く、町内就職は選択肢として十分に認識されていない
- ・地域への関心や期待が、進路や就業と結びついていない可能性がある

＜町内の中学生・高校生等における将来のまちづくりと町内就職意識の向上に向けて考えられる対応策（案）＞

- ・まちづくりや地域課題に触れる機会の創出（授業、ワークショップ等）
- ・地元企業や仕事に関する理解を深める機会の充実（職業体験、企業見学等）
- ・進路選択と地域との関わりを結びつけるキャリア教育の推進 等